

公表日 2026 年 月 日

事業所名 こぼんはうさくら 新松戸教室

保護者等数(児童数) 50名 回収数 44件(割合%)

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	38	5		1	広くはないが、ちょうど良いと思う。	壁に家具を配置し、広いスペースを確保している。活動に合わせて移動してスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	38	2		4	人数はいると思うが、専門的な知識をどの程度持っているのか不明。	配置人数など契約時面談時に周知している。何か起きた時の対応力を上げ、研修もしながら専門性も高めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	37	5		2	洗面所の段差があるのは知っている。 1階から2階に上がる階段が危ないと思う。	段差と階段がある。気を付けるよう周知するとともに、危険予知の練習に役立てることで自分で段差に気を付ける意識を育てる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	43			1	階段が上がって教室に入るが、階段が少し急な感じがして、危ないと思う。 学習スペースと活動場所と分けられている。	常に環境整備や掃除などできれいさを保つようにする。活動でレイアウトを変え、安全優先にする。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	42	1		1	発達や特性に合わせてもらっている。	5療域を意識しながら、個人の特性発達に合わせて設定し行っていることを保護者に周知していく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	42			2	合っていると感じている。	以前との変化を保護者に伝えていく。保護者の要望についての聞き取りや普段の様子をごまめに共有していくの続ける。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	43	0	0	1	面談での説明を受けている。こちらの要望を踏まえて作成してもらっている。丁寧に聞き取りをしてくれて安心感がある。	引き続き、要望や課題を分析し、反映した計画をするよう心掛ける。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	42	0	0	2	面談時に説明があった。実際にその支援を受けている。	将来への不安に対して、寄り添えるよう、その先の可能性や強みも考えながら提案していく。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	43	1	0	0		引き続き、適切な支援が提供できるよう、職員の意識を高めていく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	42	2	0	0	毎月違うプログラムが組まれていてありがたい。翌月の土曜の活動が先にわかると希望を入れやすい。	固定化するもの、そうでないものなど見極めながら、児童の発達成長を促すプログラムを作成していく。
11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	7	7	20	必要性を感じない。なくても問題ない。	通所を知られたくない、積極的交流を望まない方への配慮しているのを周知する。関わりあった場合、伝達する。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明がありましたか。	44	0	0	0	契約時に説明があった。	引き続き、契約時に丁寧に説明していく。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	43	0	0	1	説明があったと思う。	全保護者様に説明が合ったと感じていただくよう、引き続きご説明する。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	43	0	0	1	ペアトレは定期的に行われていて参加したことがある。非常に充実している。土日開催だと参加しやすい。	土日開催しているプログラムもあるが、都合が合わない方への個別配慮できるよう、日程、開催場所なども工夫する。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	44	0	0	0	電話や面談の機会を設けていただいている。親身になって聞いて考えてくれる。	保護者への聞き取りや共有だけでなく、職員の発達共通理解をカンファなどし、伝達ミスなくするため共有をごまめにする。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	44	0	0	0	電話や面談で必要に応じて聞いてもらっている。どんなことでも話せる存在。	ささいなことでも相談しやすい環境を引き続き整えていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	44	0	0	0	いつも寄り添って頂いている感じている。いつも優しく接してもらっている。共感的で適格なアドバイスももらっている。	保護者の気持ちを職員と共有しながら、ささいな場面でも共感しながら支援する大切さを常に確認する。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	36	4	2	2	交流の機会が多い。下の子への配慮もある。仕事をしているとなかなか平日の参加が難しく、少々残念だなと感じています。学校の行事や予定を重なり、参加できないことが多くて残念。	これからも親子参加行事や、保護者同士の交流ができる会を計画している。保護者に教室の貸出などしながら、交流の場を設けている。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	41	0	0	3	電話やリトムに連絡するとすぐに対応してもらっている。完璧だと思っている。	引き続きすぐに対応するよう心掛け、常に保護者様の悩みや困りごと、お子さんの気持ちに寄り添う。職員全員に共有し、対応の遅れが出ないようにする。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	43	1	0	0	送迎時にその日の様子を簡単に伝えてくれる。	職員全員に共有するよう、終礼ノートや職員間の連絡をこまめにするようにしている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	33	7	0	4	インスタがあるがあまり更新がされていないので活動の様子がわからない。児発のようにアルバム共有があるとよいと思う。	行事の度に手紙だけでなく、保護者との連絡ツールにも知らせている。SNSでは様子しか伝えていないため、行事予定も伝えるのを検討する。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	41	0	0	3		職員全体で取り扱いに気を付けるのを周知し、紛失などをこれからも気を付けていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	40	1	0	3	災害時の避難訓練（子ども）を定期的に行っているか知りたい。行われているのだろうかよく知らない。緊急時の連絡カードがある。	定期的に出すお便りなどで保護者様に周知していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	38		0	6	災害時の避難訓練（子ども）を定期的に行っているか知りたい。行われているのだろうかよく知らない。活動に設定されている。	プログラムに組み込み、保護者様に周知し、様子もわかるようSNSや定期的なお便りで周知していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	37			7	安心して利用することができる。	管理者が現在マニュアル化している。面談室等に貼る。年度初めやこぼんだよりに載せる。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	40	0	0	4	辛いケガや事故がない。些細なことでもすぐに電話で報告をもらっている。	ケガや事故が起きないように、職員の危険予測、危機管理を高めていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	43	0	0	1	長くお付き合いをしている先生が多いので信頼している。先生方との信頼関係がしっかり築けていると思う。こぼんに出会えて救われた。	保護者からも子どもからも安心される環境づくりと関係性作りをするよう、コミュニケーションをとるのを大事にする。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	41	3	0	0	いつも楽しみにしている。毎回楽しく通所し、行き渋ったことは今まで一度もない。	行き渋りがなくなるよう、活動も工夫したり、個々の気持ちに寄り添った支援をこれからも大事にして療育を行う。
	29	事業所の支援に満足していますか。	44	0	0	0	いろいろな経験をさせてもらい大変感謝している。お出かけ企画もあり、ありがたい。これからもよろしく願いします。大変満足。	引き続き、地域、保護者、ご利用児童の信頼を維持されるよう、日々精進し、教室全体での底上げをする。

公表日

2026 年 3 月 20 日

事業所名

こぼんはうすさくら 新松戸教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	部屋室内環境の見直しや改善を行い、十分なスペースの確保に努めている。十分なスペースがあるとは言い難いと感じる時がある。広く使えるよう、移動しやすくしている。	曜日によっては狭く感じることもある。テーブルの配置を変えるなどし、スペースを確保する。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	利用者様の特性も踏まえ、適宜配置人数を計画し、利用者様の状態に合わせて変更し、適切になるよう配置している。	児童の発達によっては苦しい日もある。指導員のスキル不足も考えられ、育成をしている最中。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	ここにはゆとりがあるのかを伝えていく。掲示物や荷物の置き方などによる視覚からの情報入力が多い。学校の教室内の視覚情報よりも少なく努める。スペースを確保できるよう、家具の配置や動かしやすい家具を使用し、こどもたちの活動に合わせて空間を確保し、使用できるようにしている。	教室が2階のため階段を使う必要があるが、手すりを設置し、不安なときは捕まるよう伝え、階段利用時は必ず指導員が付き、見守るなどしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	必要に応じて静かに過ごす場所、集中して過ごす場所、みんなから離れて落ち着ける場所がある。	壁紙など、はがれているところがある。補正しながら、環境整備をすみやかにしていく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0		完全に個室という空間が教室内にはないため、移動式の衝立なども活用しながら、安心できる場所を作っていく。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	業務改善のために職員の声を聴きながら計画し、振り返りながら改善に努め、全職員に周知している。	定期的に個別面談などしながら、細かく目標設定し、自身の研鑽につなげていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	定期的に保護者様の意見を伺い、結果内容を真摯に受け止め、環境設定、要望等、職員同士で話し合いながら、業務改善に努めている。	評価表を共有し、保護者の要望を周知している。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	定期的に職員への聞き取りや面談を行っている。上がった内容を管理者や職員交えて話し合い、業務改善につなげている。	職員との面談を引き続き定期的に行い、それぞれが漢字でいることなどを聞き取り、改善方法を探っていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	第三者による外部評価をお願いし、業務改善に努めている。	定期的に外部評価を行うのを続け、業務改善に努める。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	所内の研修を毎月1回行っている。外部研修についても周知し、受けられる体制を整えている。	職員の求める研修内容も聞き取りながら、必要な研修機会を設けて行く。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	支援プログラムを毎月公表している。	支援プログラムの作成から公表まで適切かどうかを定期的に振り返り改善・あればすぐに対応する。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	アセスメントを丁寧に取り、お子さんのニーズ、保護者様のニーズを元に、職員同士で話し合い、計画や日々の療育での対応に取り入れられるよう、計	引き続き、アセスメントを丁寧に取り、それを踏まえて職員間で共有し分析して反映していく。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	職員がいつでも閲覧できるようになっているのと、面談前にカンファで検討している。	面談前のカンファの仕方を5領域と個々の強みと課題にフォーカスを当てて、職員間で検討し周知しやすい工夫する。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	職員にも計画書を共有し、統一した支援、見直しの時期なども共有しながら支援を行っている。	引き続き、共有していく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	標準化されたツールなどの利用はしていないが、利用者さまのその時の様子を指導員がそれぞれ観察し、指導員各々の得意分野を活かしカンファレンスを行い、ガイドラインに沿って、各ねらいを定め、職員にも毎回共有している。具体的な支援内容を設定し共有することで、日々の療育の様子も観察し、その時々にあった対応、支援の方法なども職員で常	アセスメントを自主的に見るよう周知し伝達もしている。個々の発達特性について、定期的に話し合う時間を作る。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	話し合い、支援内容について具体的に	職員にも周知するとともに、わかりやすい言葉で表現し、職員が自分自身で読んで理解できるよう作成する。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	指導員同士で意見を出し合い作成を行っている。	曜日や各児童の発達特性を考えてプログラムを立案し、必要な児童が支援を受けられるように予定表を作成する。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	過去のプログラムを確認しながら、固定化しないよう配慮している。	職員で安を出し合い、継続するもの、変化させていくもの、新しい経験を考えていくことを職員に周知していく。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	集団活動の中で個別対応、発達別対応をするよう、同じプログラムでも利用者様に合わせた活動内容を計画している。	個々の課題に集団活動の中で個別対応することをカンファなどで周知する。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	朝礼でねらいなども話し合い、その日のご利用者様の特記事項などに触れながら確認し、連携を図っている。	朝礼終礼だけでなく、早めに計画し、その日の活動の目的とねらいを打ち合わせ、趣味レーションなどして検討する。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	こまめに共有が行われている。また、休みの職員にも周知できるよう、連絡用のノートに記入している。	振り返りシートで改善点まで踏み込んで次の機会に活かしていく。各専門性の上での意見も残り、次につなげる。

適切な支援の提供	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	良い行動、気になる行動を記入し、日々の支援につなげている。	常に日々の記録だけでなく、個々の課題について共通認識できるよう話しあい周知する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	定期的にモニタリングを行い、計画を見直している。	モニタリング時だけでなく、普段から意識して支援にあたるよう周知し、多角的にモニタリングをする。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6	0	4つの基本活動を5療育も踏まえながら一日の流れや日々のプログラムに盛り込み、支援している。	職員の周知不十分な部分があるため日々伝える。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	大人が決定するのではなく、こどもの意思を聞きながら言語化を手伝い、自己決定できるように選択肢を出している。	自己決定を育てる力の大切さを大事にする周知をしていく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	会議の前に職員間で様子などを共有し、時間帯によって指導員が児発音とともに参加するようにしているが、療育中の会議には指導員から聞き取った内容や児発音や主治医や訪問リハビリ等との連携が必要	午後の時間の会議が多かったため、職員の配置の工夫をして、直接職員が伝えられる環境を整えていきたい。
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	現在は連携しているが、現在はいらつしやらないため、学校や、保育、障害福祉の関係機関との連携を行っている。	現在、関わりのない機関とは今後支援体制を整えていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	保護者様と連絡を取り合い、学校の情報共有や、緊急時や送迎時のトラブルは学校とも連携を取っている。	年間行事予定をいただくようにし、学校行事と教室行事が重ならないようにする。緊急時は学校に直接連絡するよう検討している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0	新一年生は児童発達支援事業所との情報共有をしている。2年生以上は必要であれば情報共有を関係機関にお願いするようにしている。	連携をとり、相互理解を深めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	先住放課後等デイサービスから就労準備等のサービスに移行される方は情報共有している。障害福祉サービスに移行される方がいらつしやらないため行っていないが、今後移行される方がいるため	今後の就労先を考え、体験などができる就労事業所との連携を図っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	発達支援センターとも連携を取りながら、必要に応じて助言や研修を受ける機会を作っている。	発達センターとの連携を今後も続け、研修等にも積極的に参加する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	保護者様から、放課後に通っていることを近所の方に知られたくない方が多いこと、保護者様方が地域のこどもとの関わりを望まれているかどうかで希望の方が	町内会行事に参加し、地域との交流機会も作るとともに、通っているのを知られたくない児童にも配慮する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	6	自立支援協議会への参加はしていないが、必要であれば今後参加していきたいと考えている。	協議会の存在を知らない職員もいるため、どんなことを話し合われているかなどを伝え、参加する意味を職員に伝える。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	保護者様へお子さまの様子をお伝えし、今の発達状況や課題点、メンタル部分などの共有し、必要な支援と一緒に考えながら進めている。	カンファの回数を増やしていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	ペア・プロ等を計画し、ご参加いただいている。また、今年度は今後も定期的に開催できるペア・プロの講師資格を職員が取得し、来年度にもつなげるよう	カンファの回数を増やしていく。課題点だけでなく強みも含めて話し合いをしていく。
	保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時にご説明し、変更があれば改めて説明する機会を設けている。
37		放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	面談時にご意向を伺うようにしている。また、定期的にアンケートを取るなど、ニーズを伺う機会を作っている。	面談だけでなく、日頃から保護者様と職員のコミュニケーションを取り、伝達周知する。
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	半期ごとに面談を実施し、その際にご説明し、同意を得ている。	対面面談を実施し、保護者の要望や困りごと、強みを一緒に考え、必要な支援につけば、保護者の不安に寄り添う。
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	面談時だけでなく、個別相談や家族支援でお話を伺い、お子さまの特性に合わせて、ごぼんてしている対応とその様子を伝える。ご自身でも悩んでおられる方も定期的に開催している。親子行事も季節ごとに計画し、兄弟児同士の関わりではないが、家族で参加できる行事を開催している。	いつでも助言と支援ができるよう、職員の専門的関わりやスキルアップのため、研修のアウトプットや関わり方について話し合いを持つようにする。
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	定期的に開催している。親子行事も季節ごとに計画し、兄弟児同士の関わりではないが、家族で参加できる行事を開催している。	保護者様運営の会ができて2年を迎えるため、今後も職員も耳を傾ける場として参加し、必要な支援を探っていく。
41		こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	苦情があった場合は即対応し、改善策を考え、関係者様にお伝えしている。	苦情時の対応をどの職員もできるよう、研修やケースごとに考え、速やかかつ適格に対応するスキルを教室全体で上げる。
42		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	教室をつ定期的に発行することにより、SNSで普段の活動の様子を発信している。行事や活動によっては、関係の保護者様に様子などを写真等も添付してお伝えするなど様子がわかるように発信し、	Instagramで発信しているのを保護者に忘れられがちなため、発信した際は伝達するようにする。
43		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	職員全体で気を付けている。	定期的に職員に周知し、個人情報に関わるものの取り扱いを徹底する。
44		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	障害特性についても常に話し合い、保護者の抱える悩みも周知しながら、意思疎通を図るための配慮をしている。	障害特性の理解を深めると共に、保護者の要望を職員に周知し、全体で共有していく。
45		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5	利用者の特性を踏まえ、はじめての方との交流を怖がるなども見られるため、積極的にはしていないが、親子参加の時に、近隣の方がご興味を示された場	事業所内でやっている子育てプログラムを地域の方も参加できるなど、計画していきたい。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	各マニュアルは策定し、面談時に常時プレイングして置いている。契約時に緊急時の対策などもお伝えし、各家庭に周知できるようカード等でお配りしている。感染については、その都度	保護者様への発信を契約時だけでなく、面談時、訓練を実施したことをお手紙やSNS等で発信していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	策定し、定期的に各避難訓練を行っている。	BCPの内容の理解が深まるよう、今後も必要な研修、訓練を定期的に行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1	予防接種や服薬、てんかんなどはアセスメントに記入していただくとともに、面談時に確認し、更新している。	契約時や年度初めに行う現況の聞き取りで把握し、常に新しい情報に更新し、新たな状況が出た場合、周知する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	アレルギーの原因物質、程度、症状なども面談時に確認し、医師の指示も確認し周知しているが、今年度は指示書が出るほどのアレルギーのお子さんはいない。	新入職の職員にも入職した際に行うようにする。また、定期的にエビペンの使い方や通報訓練等をする。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全計画に則り、研修訓練を行っている。また、教室内の安全管理もしている。	安全計画を毎年更新し、研修訓練を行う。安全計画に基づいた管理を日々心掛ける。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	緊急連絡カードなどで共有している。	更新があった場合は職員、保護者に周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	事案の大小にかかわらず、再発防止のために事案を検討し職員全体で共有している。	ヒヤリハットが合った場合、全職員に周知し、改善点を共有し再発防止に努める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	虐待研修が行われている。	虐待犬種だけでなく、日頃の支援で虐待につながりそうな行為を検証し、防止に努める。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	身体拘束について、研修で考えている。身体拘束が必要と思われる児童がいないため、まだ説明をしたことはない。	身体拘束について保護者の同意書を得ることを検討中。	